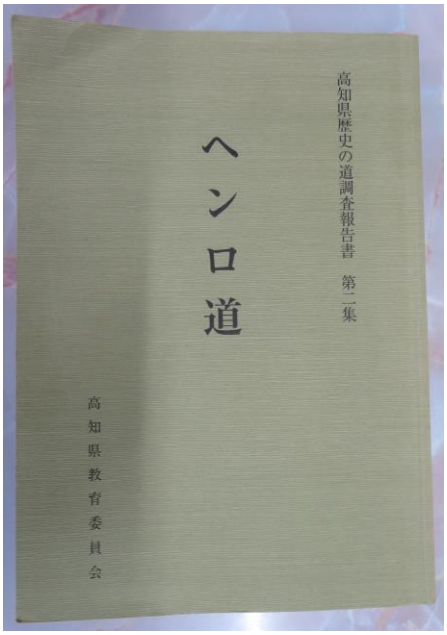
=市史編さん便り=　【56 号】 令和 5 年 1 月 27 日(金) 発行.
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

◎「あしずり遍路道の道標」等の近世石造物調査から・・・・・

1 月 25～27 日(水～金)、南国史談会・濱田眞尚会長による標記調査が行われた。平成 22 年(2010)3 月に高知県教育委員会により発行された『高知県歴史の道調査報告書第二集ヘンロ道』に掲載されていない道標(指差し)もあり、実り多き調査となった。

この報告書は、宅間一之氏(土佐史談会会長)を総括とし、岡村庄造氏(土佐史談会理事)・黒岩和男氏・小松勝記氏・津野幸右氏・濱田眞尚氏・前田一男氏など一流の研究者の皆さんにより執筆され、取りまとめられたものである。ちなみに、この編集事務は、当時県教育委員会文化財課の今田チーフ(現歴史文化財課長補佐)と田村が当たった。

1 月 25 日(水)は朝から 10 年に 1 度といわれるような大寒波の日で、県内でも水道管が凍りついて水が出ないなどの状況が見られたが、南国市から調査のために濱田さんはわざわざ駆けつけてくださった。その熱い思いを感じながらの調査となった。



『高知県歴史の道調査報告書第二集ヘンロ道』

↑『高知県歴史の道調査報告書第二集ヘンロ道』に掲載されていない道標(指差し)
懐中電灯の光で刻記された陰影により文字を読む。それでも分からない場合は石造刻記面にカタクリ粉をまぶして塗ったり、拓本を取る場合もある。あしずり遍路道の道標の建立者は、作州、現在の岡山県の遍路さんが多い。

↑窪津・鯨道上の丁石

↑以布利共同墓地上の地蔵台座にある道標

☜久百々に所在する遍路墓である。左が正面、右が側面から銘文を撮影した写真である。正面に「兵庫東出町天王寺屋比佐墓　西宮内町同のぶ」とあり、側面に「於久百川流死」と刻まれている。

このことから、四国遍路中に久百々川を渡っていたときに何らかの原因で二人とも溺死した可能性が高い。

天王寺屋「比佐」「のぶ」の 2 名の出身地と名前が刻記されていることからこの 2 名が溺死し、その供養のために建立された墓石とみて間違いない。

それでは、この 2 名はどのような関係性を持つ人物であろうか。「のぶ」は恐らく女性であろう。女性の名前は、よく平仮名を用いられることが多い。では、「比佐」はどうか。漢字で表記されており、男性か女性かを名前から断定することは難しい。「文化二年四月十二日」の銘があり、近世末に建立されており、この時代の慣習として漢字二文字で読み仮名も二文字である「比佐」は一般的には女性を指す名前であろうか？　女性と男性ならば、夫婦、女性同士であれば姉妹であろう。久百々川は、市内を流れる下ノ加江川、三崎川、宗呂川などと比べそれほど大きな川とはいえない。これは推測の域を脱し得ない話ではあるが、豪雨などの増水時に川を渡ろうとして流され、死亡したのではないだろうか。

史実にあまり登場することはないが、交通事情もよくない近世・近代は、このように遍路途中に命を落とした人はかなりの数いたのではないかと推測する。市域に残る遍路古道は、その多くが山越え・尾根越えの険路であったため、現道を外れた区間も多く、往時を忍ばせている。また、多種多様な関係石造物が濃密に残る学術的価値のある歴史景観が広がっている。